

# 譲景

譲り合いの中に、新たな景色が生まれる。  
思いやりが、調和を紡ぐ。  
山を敬い、自然と息を合わせる。  
余計を削ぎ、在るものを活かす。  
昔と今を結び、しなやかに変わる。

## 和は、日本の誕生 よりも前から、そこにあった

古からこの国には和という響きがあった。今の日本が始まったその時には和は存在した。「日本」は時代と共に建築など目に見える形で現れるが、「和」は時代を超えて人々の心に宿る目に見えない精神、考え方なのではないか。

和には形がない。それは、日本に生きる人々の気質そのものだから。

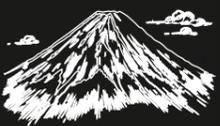
日本人ならではのとゆわれてきた精神、行いをまとめる。日本人は自然と共生し、元あるものを大切に使い続け、人に対して思いやり譲り合う精神が見られた。

## 和の精神 を育んだものは何か

和という言葉が古に生まれたように、この国の人々の生活や精神面に古くから密接にかかわっているもの、古くから信仰し、畏れ、乗り越え、共存し・生活の場とされてきた日本の根幹の存在、それは山なのではないか。

## 山が和を作った？

信仰・畏れ 共存・日常の一部



## 山に登るといふ行為 に和の表現が見られる

登山道では自然と道を譲り、先に休憩していた人が、次の人のために場所を譲る。人々は岩や斜面など自然のものに身を任せ休憩をとる。山道の立ち止まることで、周囲の美しい景色に気づく。

## 和の可視化＝譲り、

## 思いやり生まれる景色

道を譲ったときふと生まれる空間。そこから見える景色。それが譲景

# 登山に見る譲景

登山道では自然と道を譲る。

- ・先に休憩していた人が次の人の為に場所を譲る。
- ・人々は岩や斜面など自然に身を任せ休憩をとる。
- ・立ち止まることで、周囲の美しい景色に気づく。

我々にとって特別な存在である山。その山に足を踏み入れる登山文化は日常の生活と地続きだ。

しかし

2023年登山の遭難、事故総数過去最多

## 事故が増加している理由

- ・新規の登山客が増加、経験不足
- ・休憩所の不足↓上級者や慣れている人は自由に山の中で休めるが、初心者は慣れていない
- ・自分のペースが分からず無理なスピードで登る
- ・周囲の助けを借りにくい

## 今、「譲景」が忘れ

られつつある。和の心もまた、同じかもしれない。

## 自然素材と最小限の建築操作で休憩所

登山道の中に先人たちに習い自然の要素に最低限の建築要素を付加することで休憩所を作り、登山客がペースによって道を譲ったり自然の中で休憩し、譲景を生み出す。

建築的要素がある事で誰しも休憩できる場所とわかる

登山道の近くにある休憩所で、休むと同時に後続に道を譲る、先達が場所を譲り会話が生まれ、譲景を楽しむ



譲り合いが、新たな景色を生む。

どんな山でも新たな譲景を生むのに建築の有無は関係ない。譲り合いの心、和があるかどうかが大事なのだ。

和とは、受け継ぎ、気づき、そして生かすこと。

## 譲景をうみだす仕掛け

### ① 間伐材のテラス

登山口から近く、足の悪いお年寄りも散歩にこの辺りを歩く。木陰に間伐材の簡易的な椅子を置くだけで自然のテラスに早変わり。

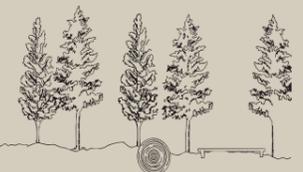
木陰 + 椅子



### ② 落ち葉のベッド

緩やかな斜面に落ち葉が広がっている。寝っ転がる人もいるが、頭などをつけないよう、丸太や板を土埋め込む。枕や椅子に早変わり

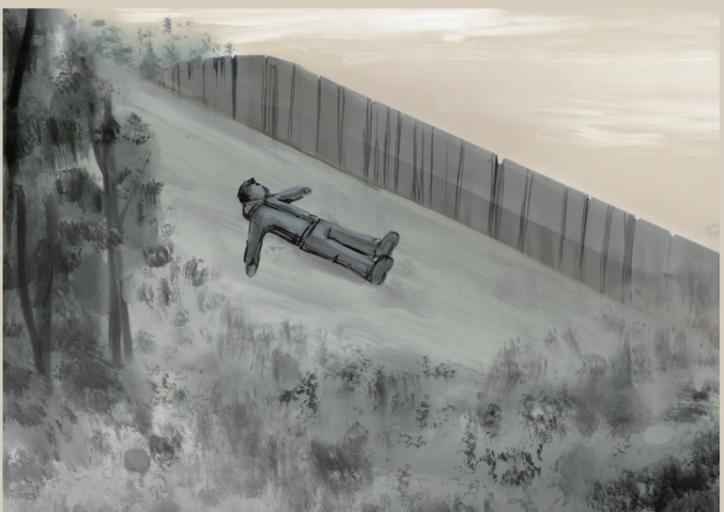
落ち葉 + 丸太



### ③ 傾斜と壁の展望台

標高が高くなり崖も増えてきたが、低木が増え寝転がれる場所に壁をつくり崖から噴き上げる風や転落を防ぐ。

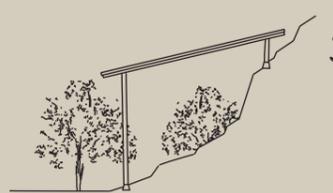
傾斜 + 壁



### ④ 岩場を作る天然の椅子

標高が高く、周囲に高い木などが無い日差しや雨を防げる場所がない。屋根をつけ、自然の岩肌に座り自分だけの位置で周囲を見下ろす。

屋根 + 岩場



登山口

①

②

③

④

敷地：西日本最高峰…霊峰 石鎚山

山頂・天狗岳

はじめは木々に包まれた穏やかな場所だが、徐々に岩場が増え鎖をつかみ上る難所も多い。